

鈴木商店調査書「東工業株式会社」(原書 P109~115)

大阪府西成郡<sup>ひえじま</sup>禰島村大字赤須

設立 明治四十年

目的 レザー及クロス等の製造

資本金 五拾萬円也 払込金拾九萬円也

重役の氏名

取締役社長	佐藤法潤	常務取締役	松島 誠
常務取締役	窪田駒吉	取締役	福永次郎
取締役	齋藤熊三郎	同	岡 謹一郎
監査役	辻 <sup>たいじょう</sup> 泰城	監査役	伊地知重明

会社の沿革 現況

同社の前身は東<sup>あづま</sup>レザー商会と称し、東京に於てレザーの製造を為しつつありしを、同業の競争猛烈の爲め、同社の如き欠損<sup>るいか</sup>累加の状態に陥りたる折柄同四十一年(原文ママ。正しくは“四十年”か)、鈴木商店は此事業の将来に着眼し、其株式を買収し実権<sup>その</sup>掌握裡に収め、尔来前記重役の手に経営を移して営業の発展に努め来りしも、依然持続せる販売価格の競争と一般市況不振の爲め絶へず悲境の状態に在りしが、突発せる欧州戦乱の結果、勁敵たる欧州製品の輸入杜絶、就中<sup>この</sup>価格低廉なる<sup>ドイツ</sup>独逸品の漸次跡を絶つに伴はれ、内地製産の主力となれる同社製品は漸く驥足を伸ばすの機運に際会し、殊に一般市況沈衰の結果として皮革、織物等の減退に反して安価のレザー製加工品は却て需要を増加するの傾向を生じ来り、且つ新製品たる護<sup>ゴ</sup>引模造皮及パテントクロス亦相当売行を呈し、内地品を以て輸入の欠陥を充当さるる等凡て有利の状態に向い来れり。

而して、同社の新事業とも云ふべき人造絹糸は最初は幾多の困難に遭遇したりしも、漸次改良進歩して殆ど輸入品に匹敵すべき優良品を確実に製造し得るに至りたるを以て、更に設備を拡張して専ら増加を図りつつあり。而して、本事業は将来全く輸入を防止し、更に進んで外国に輸出するに至るべき多<sup>た</sup>望<sup>ぼう</sup>の事業たり。

尚、整毛即ち中毛を処理して「ショデー」即ち反毛<sup>はんもう</sup>と為す作業は、戦時は勿論戦後に於ても羊毛の代用品又は混用品として甚だ有望なるのみならず、之に用ゆる薬品は「レザー」製造に使用したる薬品の廃物を利用するを得るが故に、会社の事業として最も適当なる製品として各毛織会社の歓迎を受け、将来大に発展の見込あることを確信され居れり。

而して、五年一月より十二月迄一ヶ年の成績を觀るに、純益拾萬六千五百余円を挙げ、払込資本に対し年約拾壹割強の利廻りに相当せり。以て、前途益々有望なるを想見し得べし。

大正五年度決算左の如し

資 産 之 部		負 債 之 部	
未払込株金	310,000.00	株金	500,000.00
特許権	1,219.00	法定積立金	20,000.00
土地	37,600.00	別途積立金	5,000.00
建物	117,256.20	職工積立金	232.61
機械什器工具	136,043.05	農工銀行借入金	8,308.94
有価証券	134,025.00	仮受金	7,343.46
原料	34,968.61	支払手形	576,569.98
塗料	13,306.36	未払金	7,500.00
木綿	22,900.65	掛買金	856.38
燃料	3,044.43	繰越益金	13,140.28
商品	18,786.42	当期利益金	106,566.99
二等品	204.05		
売掛金	31,426.04		
銀行預金	22,025.49		
現金	549.70		
立替金	15,148.61		
仮出金	5,822.55		
受取手形	35,924.00		
東京出張所勘定	59,709.18		
大阪出張所勘定	72,898.86		
敏馬分工場勘定	66,091.22		
米沢人造絹糸製造所勘定	59,591.87		
日本整毛社勘定	13,998.94		
鈴木商店勘定	30,172.66		
原料売掛金	2,805.75		
合計金	1,245,518.64	合計金	1,245,518.64

(単位：円)

利益分配

金 拾萬六千五百六拾六円九拾八錢五厘 当期利益金

金 壹萬參千百四拾円貳拾八錢五厘 繰越利益金

合計 金 拾壹萬九千七百〇七円貳拾七錢

内

金 貳萬円也	法定積立金
金 壹萬円也	別途積立金
金 参萬五千円也	建物機械償却金
金 四千五百也	賞与金
金 参萬円也	配当金 (一割六分)
金 貳萬〇貳百七円貳拾七銭	次期繰越金